

■ BUNGAKUZA TSUSHIN 2025.8 Vol.792

文学座通信

- アトリエの会『野良豚 Wild Boar』
対談『野良豚』が伝えるもの……………1～3
莊 梅岩×インディー・チャン
- 公演情報……………4
- 幕間(まくあい)……………清水明彦……………5
- 地方公演『欲望という名の電車』……………6
- 文学座あれこれ……………関 容子……………7
- アトリエ短信……………8

文学座9月アトリエの会

後援 新宿区

野良豚 Wild Boar

作 莊 梅岩

訳・上演台本・演出
インディー・チャン

9月9日(火)～21日(日)

信濃町 文学座アトリエ



対談

『野良豚』が伝えるもの



作家 莊 梅岩 × 演出部 インディー・チャン

◆香港と日本の違い

インディー 二〇二一年に執筆され、翌年香港で初演された『野良豚』を、今年九月に文学座アトリエで上演します。私が翻訳と演出を担当するのですが、今日は作者の莊梅岩さんをお招きしました。まずは、香港と日本の演劇が扱うテーマや、それぞれの文化の違いについて伺いたいと思います。

莊 非常に難しい質問ですね。二〇二〇年に国安法(香港国家安全維持法)が施行された後の香港について、今はまだうまく整理できないので、自分が生まれ育った時代の香港の話をしてみます。かつて香港は文化的に多元で、演劇もいろいろなテーマを扱っていました。商業的な作品でも芸術的な作品でも、それぞれに家族の話や恋愛の話がたくさんありましたし、ユニークなテーマや一風変わった作品もあった。百花繚乱の何でもある、という感じだったんです。インディー 近年は変わってきていると。莊 同業者とも話しますが、ここ二年くらいは喜劇が多い気がします。やっぱりテーマに気をつけないといけない。社会や経済が落ち込んでいて、人びともあまり楽しさを感じられる雰囲気ではないので、娯楽が必要なんですね。あと、喜劇にすれば、笑いの後ろで何かを隠喩で表現してもバレない(笑)。お客さんもシリアスなものは好まない傾向があるので、政治的なテーマや社会問題を直接描く作品は減ってきています。インディー 演劇に限らず、香港と日本の文化的な違いはどうお考えですか。

莊 日本と香港が文化的に似ているのは、多元的なテーマを扱うところでしょうか。くわえて日本は、自分の伝統文化も大事にしているイメージがあります。伝統を守りつつ、斬新な作品も生まれている。香港の伝統文化は日本ほど大事にされていない気がします。インディー 文化をどう残すかという点では、日本のほうがしっかり守られている。

莊 ええ。日本人の礼節や秩序を守る場所もすばらしいですね。たとえば、災害が起きたとき、お年寄りや女性を優先的に守る。すぐ文明開化された行為だと思っています。もちろん香港人が文明開化されていないということではなくて(笑)。香港は地震も起こりませんし、幸いあまり大きな災害がないんです。あと、香港人が話すときは直接的な物言いをしますね。日本人は礼儀正しく、相手の気持ちを考えながら話す。それも私が持っている日本のイメージのひとつなんです。

インディー 私は、香港の戯曲と日本の戯曲はちょっと違う部分があると思っています。香港の対話だと、直接的に話したり、イエスカノーを即答したりしますが、日本の対話の場合、たとえば先生と生徒とか、関係性によって変わってくる。翻訳するとき微妙な文化の違いを感じました。

莊 私と同じような体験があります。英語の戯曲を翻訳したとき、英語ではよく "How are you?" "I'm fine." といった会話がでてくるんですが、香港

アトリエ短信

訃報 古川幸夫

元演出部で座友の古川幸夫さんが、7月11日に亡くなりました。享年89。

1936年生まれ。照明家として、文学座を中心に幅広く活躍し、数多くの舞台を手がけました。本多劇場柿落し公演『そして誰もいなくなった』と文学座公演『太郎の屋根に雪降りつむ』の成果により、第2回(昭和57年度)日本照明家協会賞(舞台部門)大賞を受賞。謹んでお悔やみ申し上げます。

寄付のご報告

文学座にご寄付いただいた皆様に御礼申し上げます。感謝の意を込めて、ご芳名を掲載いたします。

小野和衛様 西岡りつこ様
原英記様 村田豊樹・洋子様
匿名希望 5名様

(本年2月号掲載以降/50音順)

「ギフトチケット」のご報告

平素より「ギフトチケット」にご協力いただき、ありがとうございます。子どもの貧困をはじめ、子どもをめぐる社会課題の解決に取り組んでいる認定NPO法人キッズドアを通じて『リセット』『肝っ玉おつ母とその子供たち』『もうひとりのわたしへ』に、計74名の方々がご招待できました。『野良豚 Wild Boar』(9月)、『華岡青洲の妻』(10~11月)でも受け付けておりますので、引き続きご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

「感謝祭2025」開催決定!

今年の感謝祭は12月21日(日)に開催いたします。※詳細は追ってご案内します。

■ こどもげきのご案内

文学座こどもげきは、今後、左記の活動を予定しています。学校公演の他、一般の方もご参加いただける企画を準備中です。

◆『アリババと40人の盗賊』

演出 所奏

8月24日(日) 東調布第三小学校公演

◆『怪人二十面相』

原作 江戸川乱歩 脚色 斎藤祐一 演出 所奏

11月5日(水) 赤松小学校公演

◆「歴博で解け! 怪人二十面相からの謎の手紙」

2026年1月16日(金)~18日(日)

新宿歴史博物館

※一般参加可。詳細は後日HPにて。

■ 2026年3月アトリエの会 演目決定!

来年3月アトリエの会の演目が決定しました。劇団としては過去に4度、外国人演出家による上演がありました。今回、2003年の『リチャード三世』以来の試みとして、エリーズ・トロン氏をお招きし、劇団創立90周年を前に新たな出会いの場を創出します。

フェフ・アンド・ハー・フレンズ
『Fefu and Her Friends』

作 マリ・アイリーン・フォルネス

訳・ドラマトウルク 添田園子

演出 エリーズ・トロン

◇出演 高橋紀恵、鬼頭典子、上田桃子、千田美智子、永川ゆり、柴田美波、音道あいり、小石川桃子

◇2026年3月17日(火)~29日(日)

◇信濃町・文学座アトリエ

※詳細は随時お知らせします。

■改名 演技部の永川友里が、7月30日付で「永川ゆり」と改名しました。

◎追加情報は文学座HPにて

出演情報

★乃村美絵:『ハリー・ポッターと呪いの子』(J.K.ローリングオリジナルストーリー、ジャック・ソーンオリジナルストーリー・脚本、小田島恒志・小田島則子訳、ジョン・ティファニー オリジナルストーリー・演出) 2024年7月~ TBS赤坂ACTシアター

★藤川三郎、名越志保、駒井健介:『華岡青洲の妻』(有吉佐和子作、斎藤雅文演出) 8/1~17 新橋演舞場

★川合耀祐:『水星とレトログラード』(保坂萌作、有馬自由演出) 8/2~11 ザ・スズナリ(下北沢)

★渡邊真砂珠:『みんな鳥になって』(ワジディ・ムワド作、藤井慎太郎訳、上村聡史演出) 8/8~10 岡山芸術創造劇場 ハレノワ、8/15~17 J:COM 北九州芸術劇場(福岡)

★川辺邦弘、萩原亮介:リーディング『不

possibleの限りにおいて』(ティアゴ・ロドリゲス作、藤井慎太郎訳、生田みゆき演出) 8/8~11 シアタートラム(三軒茶屋)

★大原康裕、郡山冬果:TBスタジオ企画『手紙 届かなかったラブレター』(得丸伸二作・演出) 8/10~11 TBスタジオ(北区志茂)

★神野崇:『ガリレオの目-それでも地球は-』(田尾下哲作・演出) 8/13~17 シアター・アルファ東京(恵比寿)

★横山祥二、山下瑛司:『あの夏、君と出会えて~幻の甲子園で見た景色~』(羽原大介作、木村弥寿彦演出) 8/23~31 サンシャイン劇場(池袋)、9/6~14 大阪松竹座、9/20 金沢市文化ホール(石川)、9/23 広島国際会議場フェニックスホール、9/26~28 御園座(愛知)

★栗野史浩、松岡依都美:『きらめく

星座』(井上ひさし作、栗山民也演出) 8/30~31 博多座、9/7~22 紀伊國屋サザンシアター TAKASHIMAYA ほか

*紀伊國屋サザンシアター TAKASHIMAYAの公演には文学座支持会、パートナーズ倶楽部会員様の特別割引があります。詳細はこまつ座 TEL03-3862-5941 まで

★後田真啓:『その鉄塔に男たちはいるという』(土田英生作・演出) 9/3~9 シアターブラッツ(新宿一丁目)

★sara:ミュージカル『once』(エンダ・ウォルシュ脚本、グレン・ハンサード/マルケタ・イルグロヴァ音楽・歌詞、ジョン・カーニー原作(映画『ONCE ダブリンの街角で』脚本・監督)、一川華訳・訳詞、稲葉賀恵演出) 9/9~28 日生劇場 10/4~5 御園座(名古屋)、10/11~14 梅田芸術劇場(大阪)、10/20~21,23~26 博多座 ほか